

キャリア教育・職業教育（インターンシップ等）の取組の強化について

現 状

職場体験活動・インターンシップ等のキャリア教育・職業教育については、産業界の協力を得ながら、県・市町村教育委員会、学校法人等により小・中学校、高校、大学にて積極的に取り組まれているが、地域を担う人材不足に対応するため、直近では、内閣に設置された産業競争力会議の課題別会合（H27.6.4）にて「初等中等教育段階におけるキャリア教育・職業教育の充実」など、未来を支える人材力強化が指摘されている。

[産業/労働界、教育界など関係者の声（当会議の前に県がヒヤリングしたもの）]

- ・ 発明クラブなどの活動を通して、早い時期から将来のものづくりを広げるべき。
- ・ 中学校・高校のキャリア教育（インターンシップ等）の受入企業をさらに広げるべき。特にものづくり関係は、産業界の協力が必要。
- ・ 教員に、より（中小）企業の現状を知ってもらう必要がある。

考え方

産業界と教育界の連携によるキャリア教育強化の目玉となる新たな取組を検討すべきではないか。

議論していただきたいこと

（１）小・中学生、高校生のキャリア教育の強化について、現状と今後の進め方に御意見はあるか。

また、産業界が協力できること、あるいは、産業界に望むことはどのようなことか。

（２）キャリア教育の実効性を高めるために、企業と学校の間を取り持つコーディネーターは必要か。期待される役割は何か。

（３）中小企業の魅力発信を行政が支援する場合、生徒だけでなく、教員、親にも効果的に理解してもらう良い方法はあるか。

魅力発信・向上のために、中小企業が自ら取り組むべきことはないか。